

Welfare [ウェルフェア]

2013年度社会福祉助成事業 助成先決定!

2013

50

CONTENTS

P2 2013年度社会福祉助成金交付団体

P3 くっきり! 福祉の未来形 ~2012年度日社済助成事業報告

「夏の宿泊研修」

NPO法人日本ブラダ・ウィーリー症候群協会

「介護技術スキルアップ講座」および「認知症高齢者の傾聴講座」

社会福祉法人 草津町社会福祉協議会

P6 チャレンジ!! 介護福祉士 県社協における取り組み

福島県社会福祉協議会における取り組み

日社済模擬問題セットの活用事例

「模擬問題セットで合格しました!」合格者体験談

P8 「20歳の実感」成人の日 書き損じはがき収集ボランティア

山形市教育委員会・成人式実行委員会

荒川区教育委員会・成人式実行委員会

日置市教育委員会・成人式実行委員会

P10 「空飛ぶ車いす」が社会科副読本に掲載されました。

P11 福祉の共済コーナー

2013年度 社会福祉助成交付団体

事業名	団体
高齢者支え合い傾聴講座	中空知・地域で認知症を支える会
多胎育児講演会	多胎育児サークルハッピーキッズ旭川支部
子育て支援者スキルアップセミナー	子育て応援団ひよこ
安達圏域障がい福祉事業所合同職員研修会	スケッチブック
第15回市民フォーラム「介護保険を考える」	徳心会
「自閉症スペクトラム障害」の啓発とサポート	日本自閉症協会
IFCO2013大阪世界大会	全国里親会
第51回 全国知的障害福祉関係職員研究大会	日本知的障害福祉協会
日本社会事業大学「高齢者地域健康プロジェクト」	日本社会事業大学
回想法研修	ともしび会
新制度～こどもデイサービス～の人材育成研修	バリアフリーセンター・福祉ネットナナの家
専門職(栄養士、調理師(員)、保育士、教師)のための食物アレルギーガイド	アトピッズ地球の子ネットワーク
車いす体験アドバイザー(体験授業指導者及び補助者)養成講座	いっば
子育て支援における相談重視者のためのスキルアップ研修	ひだまりの森
認知症高齢者の傾聴ボランティア講座(ブラッシュアップ)	傾聴ボランティア「ふれあい三輝会」
車いす修理技術講習会	神奈川工科大学車いす修理屋
福井県 自閉症支援 トレーニングセミナー2013	足羽福祉会
今後の社会福祉法人の役割の理解と介護職員の定着～魅力ある介護職・・・研修事業	みまき福祉会
第1回静岡市計画相談オリンピック	明光会
みんな仲間、集まれ「ウエルフェア塾」	ハルモニア
聴き上手は生き上手～傾聴ボランティアから仲間作り～	みよし市社会福祉協議会
支援のバトンをつなごうワークショップ研修	子育て支援を考える会TOKOTOKO
タッチケア技術の普及のための技術取得講座	三重地区社会福祉協議会 三重北校区支部
実習研修会～集う・学ぶ・生かす～	子どもの村 Kyoto
グリーンケアの総合研究(継続と発展)	認知症の人と家族の会大阪府支部
利用者のQOLを高める適切な車椅子を考える研修会	介護保険市民オンブズマン機構大阪
福祉施設での成年後見制度説明会及び個別相談会実施	シビルブレイン
演劇を通じたこころの健康啓発	こころネットKANSAI
歌体操を媒体として認知症者と交流するための歌体操研修会	歌体操介護予防市民塾
ヘルパー研修	兵庫県聴覚障害者協会
盲導犬使用者研修会(第8回ワンダフル会)	兵庫盲導犬協会
発達障害児と保護者支援のためのスタッフ研修	市民サポートセンター明石
中途視覚しょうがい者向け「音声パソコン」指導サポーター養成講座	ウエルネスハート
介護者のスキルアップ実践講座	認知症予防サポートネット
結成50周年記念研究大会、リーダー研修会	奈良県手をつなぐ育成会
聴覚障害児・者の手話教室	みみっとの会
知的障害・発達障害児(者)の理解と支援の輪を広げるための研修	一条協会
親なき後の障害者をどう守るか・本当に使える成年後見・福祉信託制度を学ぶ研修	障がい者より良い暮らしネット
生涯研修課程 チームリーダー研修会	長崎県社会福祉協議会
宮崎・鹿児島県 児童福祉施設職員並びに子育て関係者合同研修会	こじいの森・こどもの時間
職員研修	ドリーム カム ホーム
脳性まひ児の乗馬療法と改善成果	障害者のための馬事普及協会
2013アジア・パラアートTOKYO	日本チャリティ協会
日韓知的障害者サッカーフェスティバル	静岡県ハンディキャップサッカー委員会
地域資源と連携した発達障がい児の心の支援プログラム開発と実践研究	はなしのび
地域福祉活性化のためのコミュニティファンドに関する調査研究	宝塚市社会福祉協議会
障害のある子どものきょうだい支援プログラム「きょうだい・家族の思いと支援」冊子作成	ひょうご障害福祉事業協会
小地域ネットワーク事業の充実・強化と全市展開に関する調査	登別市社会福祉協議会
介護支援専門員資格取得後の研修体系の構築	大阪介護支援専門員協会高槻・島本支部
ボディメカニクスを活用した介護による職員の腰痛予防の効果に関する調査研究	大阪介護福祉士会

助成対象事業／助成内容

	対象事業	対象経費	助成額
研修事業	集合研修	社会サービスのあり方や専門的知識、技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)	助成対象項目経費合計の80%以内かつ50万円以内
	派遣研修	福祉施設職員などが幅広い視野と専門性を持って支援業務に携わるために、他の福祉施設、団体などで一定期間実習する派遣研修事業	
研究事業	実践研究	各福祉分野の先駆性ある事業の実践を通して行われる成果、課題のまとめなどの実践研究事業	
	調査研究	社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業	

●事業成果報告集 夏の宿泊研修

NPO法人 日本ブラダー・ウィーリー症候群協会

副理事 松本 和恵

本協会は、染色体No.15の突然変異による先天性疾患であるブラダー・ウィーリー症候群（以下PWS）の人たちに関わる親、医療関連の専門家、介護・ケア関連の専門家の方々とネットワークを作り、生活のQOLを高め社会参加を目指すこと、親の日々のケアの負担を軽減すること、社会にPWSを理解していただくことなどを目指し活動しています。

医師による講演で

PWSを正しく理解する

PWS疾患は1万5千人に1人の割合で発症する稀少難病です。その症状は様々で、行動の問題も多く日々の生活での対応やケアには専門的な知識を必要としています。

ところが、PWSの疾患名は知っているが、実際関わったり対応したことが無い専門家が多く、きちんと理解している人は多くありません。そこで親はもちろんのこと支援者や教育者の方々にも正しく理解していただき、就学期から適切な対応をしていくことで、問題を少しでも軽減していくため、2012年8月26日～27日の2日間大阪スポーツアイランド・ロッジ

舞州で宿泊研修会を開催しました。宿泊研修はPWSを理解し、日々のケアや体調管理などを正しく行うことを目的としています。医師による講演で海外のPWS事情を知り、日本の関係者として何をしていくべきかを考える国際介護者会議に参加した専門家の報告を聞き、多くのPWS児と関わり適切な対応を指導して頂いている臨床心理士からは、ワークショップ形式で参加者の話や対応の仕方を学びました。

宿泊研修による成果

今回の宿泊研修は南は九州から北は新潟、金沢まで全国からご参加頂きました。過去2回の宿泊研修会参加経験者や、今回初めて参加される方もいらっしやいました。親が勇気を持ち積極的に我が子の疾患の知識を得ることは、現在抱えている問題を予測し、最小限にできる可能性があります。また、PWSのことを理解し、関わり合ってくださいている医師や支援者と知り合うことで、何かあれば○○先生に、○○施設にアドバイスを頂けるといふ安心感が生まれます。

ミニワークショップでは親が年齢グループに分かれ、現在抱えている悩みや子どもの近況など

を話し合いました。このように、心を開くことにより様々な専門家の方々と知り合い、世界と日本のギャップを知ることが、ネットワークを作って連携していくことに結びついていきます。

参加者からは、今後の協会活動に関して多くの声を頂いているので、それを踏まえた協会活動の方向性を考えていこうと思っております。また、医療・介護分野の専門家の参加はありましたが、今後は教育関係者の参加を呼びかけたいと考えます。



ワークショップ グループディスカッション

●事業成果報告集

「介護技術スキルアップ講座」および「認知症高齢者の傾聴講座」

社会福祉法人 草津町社会福祉協議会

山本 麗江

「介護技術スキルアップ講座」

平成24年7月25日 午前・午後

介護スキルアップ講座では、資料を元に高齢者の機能低下を理解してもらい、当施設利用高齢



者と一緒に介護予防体操を実際に行うこと、また介護職員、サポーターが運動機能訓練指導技術を学び、介護予防体操に活用することを目指しました。また、午後の部では各事業所より集まった職員に最新の介護技術を実際に実習して



貰い、職員からのQ&Aの時間を設けました。

午前中は杏林大学の理学療法学科講師を招き、事業所職員を対象とし、スキルアップ講座を実施しました。高齢者の皆さんにも参加していただき、講師より認知予防、転倒予防体操等を学び高齢者の運動機能向上に役立てるよう、ご教授いただきました。

午後には町内事業所職員が直接講師より介護技術を学び、日頃忙しかったり、遠方開催のため研修に参加できなかった職員も、真剣に聞き入っていました。

事業の成果

「講座」は、当社協運営の通所介護デイサービス、自立型高齢者デイサービス、また地域包括支援センター主催の介護予防サポーターによる「高齢者サロン」の職員の啓発に多いに役立ちました。まず通所デイサービスでは、従来の利用者への運動訓練技術をさらに向上させることに繋がり、介護職員がレクリエーションに入りました。自立型高齢者デイサービスでは平均年齢86歳という高齢にも関わらず意欲的で、年齢にしてはきつい

と思われる体操もこなし、半月程経った頃、利用者より「不安定でふらふらしていた足がしっかりと軽くなった」、「デイサービスへ来る楽しみが増えた」、などの声が寄せられたといううれしい報告が、現場職員からありました。高齢者サロン利用者からは「片方ずつ重点的に運動するととても効果があることを知り役立った」、「わかりやすい講座だった」、「サロンの回数を増やして欲しい」等のご意見をいただきました。また、介護予防サポーターにとっても、スキルアップに繋がりが今後このような講座を実施してほしいとの要望がありました。

「認知症高齢者の傾聴講座」

平成24年10月3日～4日

認知症高齢者を地域で支援する対策の一つとして、ボランティアを育成し、自宅及び施設等を定期的に訪問し、高齢者の不安や孤独の軽減に寄与する仕組みを構築することを目的に、「認知症高齢者の傾聴講座」を開催しました。事前の募集に対し、予想を上回る申し込みがあり2日間を通して参加した30名が、受講修了者となりました。受講者は、すでに傾聴ボランティアとして活動している方、施設職員、日常生活自立支援員、民生児童委員等、多岐にわたりました。講師は、傾聴活動の草分け的存在のNPO法人ホールファミリーケア協会にお願いし、事例に沿った解説と、対応のロールプレイ実習を2回計8時間実施しました。昨今高まる傾聴講座へのニーズに応える内容の講座を、実施することができたと思っております。また、参加者より、今後もこのような講座を定期的に実施してほしいとのご意見が多数出ました。認知症と傾聴の関連は、今後介護技術において重点的な位置に置かれるのは目に見えており、参加者の意欲が伺えました。

今回のロールプレイ実習を中心とした為、初心者には難しい内容でしたが、事例は実際の場面に即した内容で、受講生には認知症の理解、傾聴の必要性を実感していただけたと思います。「これからの高齢社会に必要な内容であるからもっとたくさんの人に聞いてもらいたい」、「技術を身につけるには時間がかかるが勉強していきたい」、「入所している母親の為に実践していきたい」など貴重なご意見がありました。ボランティア活動をしているグループからは、「今後要請があれば個人宅にも訪問する準備があります」、「訪問していかなくてはならないと考えて



います」といった回答をいただきました。今回のような講座を継続していくためには、資金面での課題があります。当社協の立地環境では、講師を招くためには、相当の経費がかかってしまいます。各事業所が連携をとり、関係機関の専門家による講座を実施し、向上を図るといった努力が必要と思われれます。高齢者の介護予防については、顕著に改善がみられました。また、職員のスキルや意識の向上もみられ、特に介護技術（身体に負担がかからないようにする技術や器具の利用）及び認知症の理解度、利用者への対応の変化等をあげることができそうです。今後も質の高い講座を実施していきたいと思っております。

「チャレンジ!! 介護福祉士」県社協における取り組み

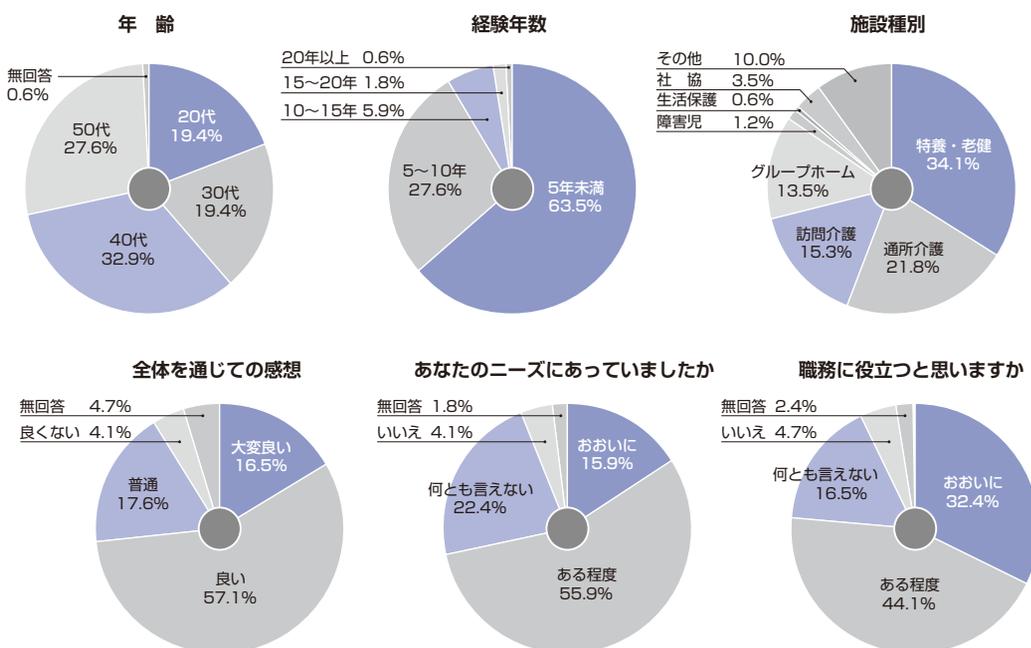
福島県社会福祉協議会における取り組み

当社協では、国家試験対策として、介護福祉士受験準備講習会を講義8日間、模擬試験1日間の計9日間の日程で実施し、合格を目指す皆さんの支援を行ってまいりました。平成24年度は約200名の方に受講いただきました。8日間の講義の中では、テキストに沿って講義を行うとともに、科目ごとにそのまとめとして、「チャレンジ!! 介護福祉士」教材を活用しながら、問題を解いていただいています。それによって、テキストで勉強したことがどのように出題されるのか、傾向を確認することができず。また、本講習会を受講される皆さんは、「試験勉強自体が久しぶり」という方が多く、試験問題を読む、答えを導き出す、マークシートに記入するといったことに慣れておらず、戸惑いを感じる方もいらっしゃいます。そのような方にとって「チャレンジ!! 介護福祉士」教材は、問題を解き、解答用紙に確実にマークすることも含めて、試験の絶好の予行練習になっています。さらに、模擬試験では「チャレンジ!! 介護福祉士」教材を活用し、試験全体の時間配分、本試験の雰囲気等を体験していただいています。「チャレンジ!! 介護福祉士」教材の問題はわかりやすく、講習

会で学んだことやこれまでの勉強の成果が確認でき、受講される皆さんの信頼できるパートナーになっているようです。本講習会を受講される皆さんは、仕事と家庭の両立で忙しく、試験勉強の時間が十分取れない方、そもそも試験勉強の方法がわからないという方も多くいらっしゃいます。そういった方々が試験のポイントや試験勉強の方法について、少しでもヒントを持ち帰っていただけるよう効果的な講習会の内容を組み立てるとともに、講習会を受講できない方には「チャレンジ!! 介護福祉士」をお勧めし、一人でも多くの方の国家試験合格を後押しすることができるように、引き続き努めてまいります。



■ 介護福祉士受験準備講習会アンケート結果



日社済
事務局
より

日社済模擬問題セットの活用事例について
提携6県社協の担当者との面談を通じて

日社済では、介護現場の最前線で働きながら「介護福祉士」資格を目指す方々への学習支援の観点より、オリジナル模擬問題セット「チャレンジ介護福祉士」を作成し、永年に亘り多くの受験希望者に提供（1セット3500円にて斡旋販売）してまいりました。

また同時に、岩手・秋田・福島・山梨・長崎・佐賀の6県社協と提携し、各県社協が実施する「介護福祉士受験対策講座」において、主に学習の最終段階の「力試し模擬試験」の講座で、当会の模擬問題セット（無償提供）を实际に使っていただいております。今回は、この提携6県社協の担当者を訪問して、率直に当会の模擬問題セットについてお聞きしてまいりました。まず6県社協が共通でお話しされていたこととして、1点目は、受験対策講座の受講者は限られた方々なので、もっと幅広く受験希望者に対する支援を検討していきたい。具体的には、自宅学習者への学習支援等を強化したいとのことでした。また2点目は、この「介護福祉士受験対策講座」等の支援事業を赤字事業にはしたくないとのことでした。具体的には、広い県域であったり、離島を抱えていたりして、受験講座開設のための会場確保、日程調整等にそれぞれ大変ご苦労されているとのことでありました。そ

んな中で、当模擬問題セットに対する率直な感想を伺ったところ、前記の自宅学習者支援のために大変助かりましたとのこと意見を頂戴しました。ある県では、模擬問題セットを斡旋して、多くの方々からの購入があったといわれておりました。こうした活動は単に自宅学習者への支援のみならず、受験講座開設のための会場費等に充当できるなど各県社協の財源確保にも役立つたところをお話でした。また模擬問題セット自体の感想を求めたところ、①3回分はお得感がある。他の模擬問題より圧倒的に安い。②マークシートがついていて試験本番さながらの臨場感が得られる。課題としては③正誤表が多いなどのご意見があった。またある県では、新たな取り組みとしてより多くの受験希望者を支援するために、当会オリジナル模擬問題セットに掲載の問題を使って、平成25年度以降受験生を対象に、超直前試験対策としてメルマガ方式での模擬問題提供を検討されるなど、平成28年1月からの受験資格変更を見据えた積極的な展開を準備されています。

当会としてもこうした県社協の積極的な取り組みを支援し連携強化することにより、働きながら資格取得を目指す方々への更なる支援強化を図っていききたいと考えています。

模擬問題セットで、一発合格!

東京都葛飾区 お花茶屋ロイヤルケアセンター
万年 繁三 63歳



私がか社勤めの傍ら介護ヘルパー2級課程を修了したのは平成16年、55歳のときでした。それから5年後、60歳定年を機に「在宅登録ヘルパー」を始めました。現在の施設に転職したのは本年2月1日でした。

私は1年位前から受験勉強を始めました。試験まであと3ヶ月となったとき、焦りも混じり不安になってきましたが、模擬問題を最初から繰り返しやって試験に臨もうと決めました。休みを利用して「試験本番」と同じ時間に、午前・午後と模擬問題を何度か続け「本番はこれだ」と自分に言い聞かせ納得し試験日をむかえました。

試験開始後は、まず問題を読み、自信のある問題か

ら解いてゆき、分からない問題は後回しにし、最後まで解らない問題も白紙にせず、模擬問題を思い出し、時間いっぱい考えて試験終了。そして……、結果は念願の「一発合格!!」でした。

「チャレンジ!! 介護福祉士」で良かったことは実際の試験と同じマークシート方式なので、落ち着いて試験本番に臨めたこと。また、問題及び解答で「○正解の理由」「×間違っているのはここ」と解説を繰り返し読んだことが、記憶として残っていたことです。年齢的に覚えも悪くなり、なおかつ働きながら勉強するという厳しい状況を救ってくれたのが「チャレンジ!! 介護福祉士」だと感謝しています。

「20歳の実感」 成人の日書き損じはがき収集ボランティア

成人式にできる社会貢献活動

山形市成人の祝賀式実行委員会
山形市教育委員会

山形市の成人の祝賀式実行委員会では、「書き損じはがき収集ボランティア」による社会貢献活動を実施しました。この活動は公益財団法人日本社会福祉弘済会が支援している工業高校生の「空飛ぶ車いす」活動の支援になります。書き損じはがきは切手に交換し、企業等の協力により切手を現金化してパンクしないタイヤの購入や、工業高校から国際空港までの車いす輸送費用等に充てています。

成人式に集められたはがきは、山形市教育委員会・社会福祉課の鈴木さんと成人祝賀会実行委員の新成人大村さんに出席いただき、社会貢献に造詣の

深いジブラルタ生命の山形支社で贈呈式が行われました。

※山形市では3年前に成人式を迎えた時も「かけがえないもの」をテーマに取り組み、書き損じはがきを収集していただいております。この活動を全市町村の教育委員会にお知らせしたところ、輪が広がって来ております。山形教育委員会のご協力に感謝いたします。(事務局)



左から2人目が大村さん 中央が鈴木さん

新成人から寄せられた声

東京都荒川区では、新成人にも社会に目を向けてほしい、という気持ちと、今年度の成人の日のつどいのテーマでもあります「飛翔」に掛け、実行委員会において「空飛ぶ車いす」支援事業への協力として「書き損じはがき収集」が実施されました。

成人式が行われた1月14日は東京では大雪に見舞われましたが、終了後、新成人からのメッセージが

寄せられました。

長谷川 智美さん 子どもと関わるボランティアは何度も参加させていただいていますが、海外などへ範囲を広げた「誰かの役にたっている!」というボランティアに参加したのは初めてでした。20歳という節目の時に、自分以外の人々と関わることでうれしく思いました。

荒川区成人の日のつどい実行委員会 東京都荒川区教育委員会

小泉 ありささん 募金という形のボランティアと違い、皆が気軽に参加できるボランティアなのですごく良いと思います。もっと知名度が広がって協力者が増えるようなれぱと思います。

藤次 晃司さん 成人式で今回のようなボランティア活動を行うのはとても良いと思いました。荒川区内の人のためだけでなく、遠くの人たちのためにも何

かできたのが嬉しかったです。こういった活動は多くの人の協力が無いと行えないので、今後も成人式などで続けていってほしいです。

山本 貫之さん 多くのはがきが集まって、少しでも役に立てて良かったです。

長田 実紗さん ひどい雪の中で行われた成人式でしたが、集められた書き損じはがきは、私たちが予想していたよりも多くの枚数で、とてもありがたく感じました。「空飛ぶ車いす」支援事業を知っている人は、まだまだ少ないと思います。私自身、20歳

感動、そして感謝。

今年の成人式における企画運営に携わることとなり、しかも実行委員長という大役まで授かってしまいました。何をすればよいのか模索していたところ、教育委員会の方から、「こういった活動もあるよ」と紹介されたのが、「空飛ぶ車いす」支援事業の「書き損じはがき収集ボランティア」活動でした。資料を読んでいくうちに自分たちより若い高校生が全国各地で頑張って活躍していることに深い感動を受け、同時にその活動の存在さえ知らなかった自分に恥ずかしさを覚え、自分もなにか参加せずにはいられない気持ちになりました。そこで、実行委員会の賛同も得て、成人式当日の企画は、収集ボランティアとして参加させていただくことに決めました。

「はがきが集まらなかつたらどうしよう…」など不安もありましたが、たとえばはがきが集まらなくても、私と同じように「空飛ぶ車いす」活動の存在を知り、世の中にはいろいろな形で社会に貢献することができると気付いてもらうだけでも意義があることだと思

なっていて初めて知りました。そんな中でも協力してくださった方々がいらっしやあって、とても嬉しかったです。書き損じはがきがたくさん集められて良かったね！と、思い出で終わらせるのではなく、これから自分のできる範囲で活動に参加して、空飛ぶ車いすをもっとたくさんの人々に知ってもらおうことができれば素敵だな〜と思いました。

鹿児島県日置市平成25年成人式実行委員長 有村 美里

い、リーフレットを作成し案内状に同封しました。

成人式終了後、回収してみると予想を超えた約700枚のはがきが集まり、その一枚一枚に込められた思いに、感謝と感動を覚えずにはいられませんでした。

今回、私たちが行った活動は、ほんの小さなことかもしれませんが、でも、その小さな思いが、20歳を迎えた仲間、参加していただいた方々に伝わり、「小さなことでも誰かのためになる！」を実感し、今の自分にできることを考え、それを実行していくことの大切さを学ぶことができたと思います。

今までは、周りのいろいろな人々に支えられて生きてきた自分。これからは、人の為にできることに広い視野を持って、いろいろな人々を支えていける人間になりたいと思います。集まったはがきは、「空飛ぶ車いす」のタイヤ購入費や輸送費等に活用されると聞きました。ほんのわずかもかもしれませんが、一助になれた喜びと、実行委員会に携わり、少しだけ成長できた自分をうれしく思います。



成人式終了後も、実行委員作成のポストを区役所の窓口を設置して、はがきを回収



今回の活動を通して思ったこと——一つの小さな思いが繋がり合い、それが大きな輪となって、人々が無理せず支え合う世の中になっていけたらどんなに素敵なことだろう…。

「空飛ぶ車いす」は、無理なくできるボランティアでリレーに参加する国際協力活動です。このボランティアリレーのしくみや高校生の車いす修理活動が、わかりやすく掲載されておりますので、ご紹介申し上げます。



58

社会への参加

空飛ぶ車いす

高校生が修理した車いすを世界に!



車いすを一度分解し、部品の洗浄やサビ取り、壊れたところの修理などをして、再度組み立てます。



車いすをもらって…



学校に行けるようになりました。

▲1 車いすを修理

▲2 車いすを贈られて、学校に行けるようになったベトナムのチィちゃん

捨てられる車いす／買えない車いす 日本で1年間に廃棄される車いすは、3万台以上といわれる。一方、発展途上国では、車いすが高価で、数も不足しているため、買えない人が大勢いる。

車いすを修理し、世界へ「空飛ぶ車いす」という活動では、全国各地の工業高校の生徒などが、福祉施設や病院で廃棄される車いすを、ボランティアで修理している。そして、使えるようになった車いすを、ボランティアが飛行機で発展途上国(おもにアジアの国々)に運び、車いすを必要とする人に贈っている。全国の81の学校と団体が修理ボランティアに参加し、2011年度までに26か国に5592台の車いすを届けた。

●「空飛ぶ車いす」のしくみ



東日本大震災の被災地に車いすを届ける

「空飛ぶ車いす」は、東日本大震災後、被災地に修理した車いすを届けたり、津波の被害を受けた車いすを修理したりする活動を行った。届けた車いすは358台*に上る。
*2012年8月8日現在



▲3 宮城県女川町に届けた車いす

●津波の被害を受けた車いすを修理した高校生の言葉

私は経験していませんが、神戸も17年前の阪神大震災で大変な被害にあっています。ですから、今回の東日本大震災は人ごととは思えません。被災した車いすは可動部分が錆びて動かず、頑丈なフレームやボルトが折れて曲がるというとんでもない状態のものばかりでした。破損パーツは旋盤等で作り、フレームの曲がりにはガスバーナーで修正する。どれも非常に難しい課題ばかりでしたが、一生懸命取り組みました。とても喜んでもらったとの話を聞き、ほっとしています。



▶4 神戸市立科学技術高校2年の林大地くん

ボランティア活動とは、個人の善意によって自発的に行われる無償の行為をさす。ボランティアに参加することは、家庭や地域での役割を果たすことや働くことと同様に、社会に参加することにつながる。

メモ 「空飛ぶ車いす」では、車いすの修理部品代や輸送費などの活動資金を得るため、書き損じはがきの収集をよびかけている。はがき約100枚で、車いす1台分のパンクしないタイヤを買うことができる。

日社済【福祉の共済】を担当している ジブラルタ生命の担当者をご紹介します

—沖縄エリア沖縄第二支部 我如古^{ガニコ}ライフプラン・コンサルタント(LC)の声より—



左から我如古LC、比嘉LC



社会福祉施設を通して社会貢献に取り組むきっかけになった「育成福祉会」施設長の皆様 左から 與那施設長、我如古LC、屋嘉部施設長、稲福施設長

日社済会員施設の皆様へお役に立つために

—自分ができることは何があるだろう—

「福祉の共済」担当者として社会福祉施設の皆様の元へご訪問をはじめた当初、このことを常に考えていました。その最中、会員施設である「育成福祉会」との出会いがありました。育成福祉会では社会福祉に対する崇高な精神のもと社会福祉振興に邁進されるだけでなく、社会貢献にも非常に高い意識をお持ちでした。また、日社済の事業についても深いご理解があり、会員施設の皆様への説明会を通して私の活動をサポートしていただきました。育成福祉会の施設長が当時会長をされていた「知的障害者福祉協会」の集いでも、日社済の【福祉の共済】を紹介してくださいました。自分の使命を模索していた中、この重要な役割を担う皆様へ、【福祉の共済】を通じてきっとお役に立てることを見つけた瞬間でした。

園長先生と一緒に考え、取り組んだ 「世界の絵本展」「おこづかい教育出前教室」

のびる保育園では創立30周年記念事業として、子どものための質の良い本とは何か、世界や日本の歴史を振り返りながら、絵本作家が絵本を通して伝えたい思いを感じてもらおうと「世界の絵本展」を企画されました。日社済担当者として日社済の助成事業を通して関わることができ、非常にやりがいを感じることができました。また、のびる保育園ではジブラルタ生命で全国的に無料開催している「おこづかい教育出前教室」を開催することができました。この教室は子どもの「お金力」を高め、賢く生きる力を養うことを目的としており、先生方だけでなく、保護者の方にもご好評を賜り、担当者冥利に尽きる喜びでした。



先生方や保護者向けに「おこづかいセミナー」を開催させていただいた「のびる保育園」左から外間園長、我如古LC

社会貢献を通して皆様のお役に立てる喜び

「歌と音楽を通して高齢者の方に“元気”を届ける」をコンセプトとした「虹の会」では、全国の老人福祉施設を巡回しています。日社済ではこの事業に共催しており、沖縄の訪問では私が複数の施設をお手伝いさせていただきました。その中で「ふくぎ会」との出会いがあり、当日は童謡や懐かしい歌謡曲を中心に音楽の輪が広がる素晴らしい時間を共有できました。利用者の方はもちろん、スタッフの皆様も地域の方々も生き生きとした笑顔で楽しまれている様子に、自分自身も素直に感動した時間だったのを記憶しています。私の仕事は会員施設の方々へ生命保険を通して人生のサポートをすることです。その役目はもちろんのことですが、この社会福祉というかけがえのない重要な役割を日々果たされている皆様へ日社済担当者としてお役に立つこと、これが私の使命です。その使命を果たせるよう今後とも精進していきたいと存じます。



虹の会を通して慰問訪問させていただいた「ふくぎ会」の皆様(左) 我如古LC(右)稲福LC

新・ジブラルタ生命は、おかげさまで1周年

ジブラルタ生命は、2012年1月1日にAIGエジソン生命およびエイアイジー・スター生命と合併し、おかげさまで1周年を迎えました。

これからも安定した財務基盤のもと、お客さまにご提供するサービスのクオリティをさらに高めてまいります。

※ご契約いただいている保険の契約内容につきましては、合併に伴う変更は一切ございませんので、ご安心ください。

コールセンター 0120-37-2269
ホームページ <http://www.gib-life.co.jp>

ジブラルタ生命保険株式会社

受付時間 平日8:30～20:00 土曜9:00～17:00 (日曜・祝日・12/31～1/3を除く)

ご契約内容に関するお問い合わせや、ご請求手続きに関するご相談がございましたらコールセンターまでご連絡ください。

「公益財団法人 日本社会福祉弘済会」はジブラルタ生命と提携し「福祉の共済」を推進しています。

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを 日本の工業高校生が修理・再生して アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、
生徒会などで車いすの
修理を行います。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から
届けられた「書き損じはがき」を切手
に交換し、さらに企業等の協力により
切手を現金化して“パンクしないタイ
ヤの購入費用”や“工業高校から
国際空港までの車いす輸送費用”に
充てています。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などで
アジア各国を訪問する際に、
搭乗機手荷物として
運びます。

いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できるボランティア活動。

参加要項

対象

「未使用、書き損じの官製はがき&未使用切手」

- 年賀状、暑中見舞いなどで宛名を間違えて投函しなかった「官製はがき」
- 転居通知などで余分に印刷して使用しなかった「官製はがき」
- 会議、会合の案内や出席通知などで投函しなかった「官製はがき」など
- 趣味で集めた記念切手や記念シートなど

期間

はがき収集は年間を通じて随時実施。
いつでも、何枚でも受け付けています。

送付 方法

送料は「元払い」でお願いいたします。お送りいた
ただくはがきの枚数を数える必要はありません。
●ご協力者の氏名、連絡先の明記をお願いいたします。

お問い合わせ・
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3
URL ▶ <http://www.nisshasai.jp/soratobu/index.html>
TEL.03-3846-2172 FAX.03-3846-2185